

科目名	情報処理試験特別講座Ⅲ(秋向) 応用情報技術者					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	國房 篤子	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ミニテスト(H30春～R01秋の問題)、午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R03秋の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	3	R03秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	4	R03秋の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	5	R03秋の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	6	R03秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	7	R03秋の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	8	R03秋の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	9	R04春の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	10	R04春の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	11	R04春の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	12	R04春の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	13	R04春の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	14	R04春の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	15	R04春の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	16	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	17	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	18	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	19	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	20	H30秋の午後問題の間1,5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	21	H30秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	22	H30秋の午後問題の間4,7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	23	H30秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	24	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
25	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習		

	26	模擬試験の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	27	模擬試験の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	28	H30春の午後問題を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	29	H30春の午後問題を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	30	H30春の午後問題の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	定期試験と模擬試験およびミニテストにて評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(国家試験)	◎	◎				80%
	模擬試験とミニテスト	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅲ(秋向) 基本情報技術者試験					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	新納 美佳、滝石 展行、石田 典雅	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当(全員)	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	2	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	3	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	4	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	5	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	6	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	7	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	8	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	9	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	10	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	11	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	12	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	13	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	14	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	15	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	16	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	17	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	18	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	19	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	20	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	21	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	22	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	23	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-4			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	24	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
25	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと		

	26	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-3 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	27	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-4 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。 出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験特別講座Ⅲ(秋向) 安全支援確保士試験					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	國房 篤子	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	情報処理安全確保支援士の過去問題を通して、エンジニアに必要なセキュリティに関する知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				認証とアクセスコントロールについて過去問題で知識を身につけ、関連問題を解くことができる。
	○	○				サーバセキュリティについて過去問題で知識を身につけ、関連問題を解くことができる。
	○	○				電子メールセキュリティについて過去問題で知識を身につけ、関連問題を解くことができる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	FWの基礎(AP_H19春PM I_Q1) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	2	FWの基礎(AP_H21春PM_Q9) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	3	FW・IDS・IPS・UTM(SV_H19春PM I_Q2) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	4	FW・IDS・IPS・UTM(SC_H25春PM I_Q2) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	5	FW・IDS・IPS・UTM(SC_H29春PM I_Q1) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	6	PKI基礎(SW_H16春PM I_Q1) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	7	PKI基礎(SW_H17秋PM I_Q3) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	8	PKI基礎(AP_H26春PM_Q1) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	9	PKI・SSL(SU_H17秋PM I_Q4) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	10	SSL(SC_H23秋PM I_Q3) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	11	SSL(SC_H29秋PM I_Q3) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	12	PKI(SC_H21春PM II_Q1) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	13	認証基礎・パスワードリスク(AP_H27秋PM_Q1) 解答練習、解説、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	14	認証基礎・SSO(AP_H20春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	15	認証基礎・検疫NW(AP_H22秋_Q9)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	16	認証基礎・ICカード(AP_H18春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	17	認証(SC_H25秋PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	18	認証(SC_H26春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	19	認証(SC_H27春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	20	認証(SC_H27秋PM I_Q2)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	21	業者模試①・午後Ⅰ 解答練習、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	22	業者模試①・午後Ⅰ 解答練習、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	23	業者模試①・午後Ⅱ 解答練習、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
	24	業者模試①・午後Ⅱ 解答練習、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める	
25	業者模試②・午後Ⅰ 解答練習、見直し			出題された用語を復習し、理解を深める		

	26	業者模試②・午後Ⅰ 解答練習、見直し	出題された用語を復習し、理解を深める				
	27	業者模試②・午後Ⅱ 解答練習、見直し	出題された用語を復習し、理解を深める				
	28	業者模試②・午後Ⅱ 解答練習、見直し	出題された用語を復習し、理解を深める				
	29	業者模試・午前Ⅱ 解答練習、見直し	出題された用語を復習し、理解を深める				
	30	業者模試・午前Ⅱ 解答練習、見直し	出題された用語を復習し、理解を深める				
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で模擬試験、ミニテストを実施する。 (2)定期試験(国家試験)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験(ミニテスト)	○	◎		○		40%
	期末試験もしくは国家試験	○	◎				60%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Webシステム構築 I					
科目名(英)	Web system construction I					
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	三屋 恵一郎	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	前期で学んだサーブレット&JSPおよびデータベースを使用してWebアプリケーションの開発を行う。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				サーブレット&JSPを使用した独自のWebアプリケーションを作成できる。
		○				データベースを利用して情報の永続化を行う事ができる。
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	2	開発計画 - 1			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	3	開発計画 - 2			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	4	外部設計 - 1			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	5	外部設計 - 2			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	6	外部設計 - 3			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	7	外部設計 - 4			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	8	外部設計 - 5			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	9	外部設計 - 6			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	10	外部設計 - 7			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	11	外部設計 - 8			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	12	外部設計 - 9			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	13	外部設計 - 10			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	14	実装(プログラミング) - 1			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	15	実装(プログラミング) - 2			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	16	実装(プログラミング) - 3			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	17	実装(プログラミング) - 4			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	18	実装(プログラミング) - 5			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	19	実装(プログラミング) - 6			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	20	実装(プログラミング) - 7			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	21	実装(プログラミング) - 8			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	22	実装(プログラミング) - 9			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	23	実装(プログラミング) - 10			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					

評価方法	開発計画で作成したスケジュールにおいて、実装フェーズ10の段階における進捗状況により評価点をつける。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	開発進捗状況		◎				100%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Webシステム構築Ⅱ					
科目名(英)	Web system construction Ⅱ					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	三屋 恵一郎	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	前期で学んだサーブレット&JSPおよびデータベースを使用してWebアプリケーションの開発を行う。					
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				サーブレット&JSPを使用した独自のWebアプリケーションを作成できる。
		○				データベースを利用して情報の永続化を行う事ができる。
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	実装(プログラミング) - 11			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	2	実装(プログラミング) - 12			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	3	実装(プログラミング) - 13			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	4	実装(プログラミング) - 14			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	5	実装(プログラミング) - 15			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	6	実装(プログラミング) - 16			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	7	実装(プログラミング) - 17			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	8	実装(プログラミング) - 18			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	9	実装(プログラミング) - 19			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	10	実装(プログラミング) - 20			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	11	実装(プログラミング) - 21			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	12	実装(プログラミング) - 22			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	13	実装(プログラミング) - 23			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	14	実装(プログラミング) - 24			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	15	実装(プログラミング) - 25			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	16	実装(プログラミング) - 26			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	17	実装(プログラミング) - 27			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	18	実装(プログラミング) - 28			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	19	実装(プログラミング) - 29			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	20	実装(プログラミング) - 30			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	21	テスト - 1			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	22	テスト - 2			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	23	テスト - 3			前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
24	テスト - 4			前期で学んだ内容を復習しておくこと。		

	25	プレゼンテーション - 1	事前に発表用の資料の作成、発表のリハーサルを行っておくこと				
	26	プレゼンテーション - 2	事前に発表用の資料の作成、発表のリハーサルを行っておくこと				
	27	プレゼンテーション - 3	事前に発表用の資料の作成、発表のリハーサルを行っておくこと				
	28	プレゼンテーション - 4	事前に発表用の資料の作成、発表のリハーサルを行っておくこと				
	29	プレゼンテーション - 5	事前に発表用の資料の作成、発表のリハーサルを行っておくこと				
	30	まとめ					
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	プレゼンテーションを行いその内容と成果物によりそれぞれ評価点をつける。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プレゼンテーション	◎			◎		40%
	成果物		◎				60%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	アプリケーション構築 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	androidアプリの開発環境を準備し、Android Studio を利用したアプリ開発の経験する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				androidアプリの開発に必要な環境を準備することができる。	
		○				android studioを利用して、基本的にアプリ開発の手順を学び、実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	はじめてのAndroidプログラミング 第5版(SBクリエイティブ) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	開発環境の準備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	Android Studio の基本操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	簡単な Android アプリの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	Kotlin とは ① 変数と型 / 制御構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	Kotlin とは ② コレクション / 関数とラムダ式			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	Kotlin とは ③ クラスとインターフェース			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	画面の作成と画面遷移			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	保存処理の実装			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	フラグメント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	フラグメントを使用したアプリケーション作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	タイマー			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	サウンドの再生			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	タイマーとサウンド再生を使用したアプリケーションの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	アプリケーション作成演習 - 1			遅れている分は授業外で進めておく事		
	15	アプリケーション作成演習 - 2			遅れている分は授業外で進めておく事		
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	アプリケーション作成演習を課題として評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		◎		100%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	アプリケーション構築Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	androidアプリの開発環境を準備し、Android Studio を利用したアプリ開発の経験する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				androidアプリの開発に必要な環境を準備することができる。	
		○				android studioを利用して、基本的にアプリ開発の手順を学び、実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	はじめてのAndroidプログラミング 第5版(SBクリエイティブ) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	カメラアプリの作成 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	カメラアプリの作成 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	カメラアプリの作成 - 3			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	データベースとの連携 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	データベースとの連携 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	データベースとの連携 - 3			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	スケジュールアプリの作成 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	スケジュールアプリの作成 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	スケジュールアプリの作成 - 3			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	JSONデータの読み込み - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	JSONデータの読み込み - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	アニメーションの作成 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	アニメーションの作成 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	アプリケーション作成演習 - 1			遅れている分は授業外で進めておく事		
	15	アプリケーション作成演習 - 2			遅れている分は授業外で進めておく事		
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	アプリケーション作成演習を課題として評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		◎		100%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養ⅢB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	佐藤 智子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	就職に必要な一般教養を習得する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	◎		○		就職に必要な一般教養を習得し、活用できる。	
	◎	◎				学内試験をクリアする。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	漢字の読み・日本地理・式と計算				小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。	
	2	漢字の書き取り・日本地理・式と計算				小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。	
	3	同音異義語・世界地理・速さの基礎				小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。	
	4	同音異義語・日本史・**算				小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。	
	5	語句の意味・日本史・**算				小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。	
	6	同義語対義語・世界史・**算				小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。	
	7	四字熟語・政治経済・確率				小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。	
	8	正試験				授業で習ったことを復習し習得する。	
		※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業中にミニテストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	ミニテスト				◎		20%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	卒業研究 I						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	3年間の専門教育の集大成として、原則チーム製作でアプリケーション開発の企画・設計・製造・テストを行い、最後に成果物に関するプレゼンテーションを行う。製作でなく研究でもよい。 この科目では主に設計を中心に行う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				チームで共同して製作・研究を行うことができる。	
	○	○				成果をプレゼンテーションできる。	
テキスト・教材 参考図書	各項目ごとのスライド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グループ製作のチーム・テーマ決め			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	5	概要説明書作成			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	11	概要説明発表準備			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	12	概要説明発表			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	13	設計			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	28	製作・研究			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	37	中間発表準備			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	38	中間発表			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	提出書類と中間発表での発表内容にて評価を行う。 また作業への取り組み方や授業態度も評価に加える。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	中間発表	○	○		○		70%
	提出書類	○			○		30%
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						

科目名	卒業研究Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	3年間の専門教育の集大成として、原則チーム製作でアプリケーション開発の企画・設計・製造・テストを行い、最後に成果物に関するプレゼンテーションを行う。製作でなく研究でもよい。 この科目では主に設計を中心に行う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				チームで共同して製作・研究を行うことができる。	
	○	○				成果をプレゼンテーションできる。	
	○	○				成果を必要な書類にまとめて納品できる。	
テキスト・教材 参考図書	各項目ごとのスライド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	製作・研究			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	:				チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	28	テスト・ドキュメント作成			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	:				チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	35	発表準備			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	:				チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	38	最終発表			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	最終提出の作品と最終発表での発表内容にて評価を行う。 また作業への取り組み方や授業態度も評価に加える。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	最終発表	○	○		○		60%
	作品	○	○		○		40%
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						